

Course number		U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：文化人類学調査法 ILAS Seminar :Cultural Anthropological Research		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,KAZAMA KAZUHIRO Graduate School of Human and Environmental Studies Assistant Professor,KAJIMARU GAKU		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman)	5 (5)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Wed.5
Classroom	23, Yoshida-South Campus Bldg. No. 1				Language of instruction	Japanese
Keyword	フィールドワーク / 調査計画 / 資料収集 / 文化人類学					

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

フィールドワークは、文化人類学における必須の資料収集方法である。本演習は、文化人類学のフィールドワーク法を体得する準備段階に位置づけられる。そのため、段階を踏んで、初歩的なフィールドワークの経験を積むことが、本演習の概要である。まず、準備作業としての事前情報収集、人類学的な主題設定と計画立案を行う。つぎに、教員が受講生を引率して、実際に調査地に泊り込みで出かけ、一次資料を集める。さらに、収集資料をまとめて考察し、口頭発表する。2025年度は、奈良県大淀町近辺において、6月21日（土）～6月22日（日）に実施する予定である。場所や日程については、受講生との相談により正式に決定する
ただし、感染症や気象等の状況によっては、フィールドワークを中止することもある。

[Course objectives]

本演習の目標は、下記の手順により、フィールドワークの基本的な技法を体得することにある。

- 1) 文献等を事前に収集して準備作業を行い、実践的な調査計画を立てる。
- 2) 実地調査地に行き、調査計画に基づいて聞き取りや参与観察を行う。
- 3) 収集資料をまとめて分析し、テーマに基づいて考察する。

単なる情報収集に終わることなく、人類学的に考察を行うことが重要である。

[Course schedule and contents]

第1回～第4回：日本語で書かれたフィールドワークの方法論や民族誌を輪読し、担当者が発表する。発表内容について討論する。

第5回～第7回：受講生自らが関心をもつ個別の対象について、調査地に関わる文献等を渉猟して、基本情報を収集し、口頭発表と討論を行う。なお、資料収集においては、授業時間外の自習を含む。

第8回～第11回：個別対象から抽出した人類学的なテーマについて、文献を読む。学生自らの問題関心を人類学の既存研究と結びつける。問題関心に基づいて、予備調査計画を立てて口頭発表し、全員で討論する。

授業時間外：調査地に赴いて調査を行い（1泊2日）、現地で収集資料をまとめる。

第12回～第14回：調査資料を整理したうえで考察し、口頭発表する。

第15回：授業の総括およびフィードバック

----- Continue to ILASセミナー：文化人類学調査法(2) -----

ILASセミナー：文化人類学調査法(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

授業における積極性、情報をまとめたプレゼンテーション、議論、発表レジュメの充実度をもとに評価する。詳細は授業中に説明する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

参考資料となる市町村史等が図書館に入っているので、活用すること。

[Study outside of class (preparation and review)]

フィールドワークに関わる文献に目を通す。また、授業の性格上、自分の関心テーマに関して、積極的に文献研究や情報収集を行う。

[Other information (office hours, etc.)]

自ら積極的に調査する意欲が必要である。多様な事象に興味を持ち、疑問に基づいて課題を設定し、自ら解決するために創意工夫する態度が望まれる。人類学関連科目が多数開講されているので、それらを履修することが推奨される。

なお、フィールドワークを実施する場合、かかる費用は受講生の負担となる。調査に先立ち、学生教育災害傷害保険に加入しておくこと。

1泊2日の調査費用は、受講生の自己負担であり、今年度の往復交通・宿泊費は、合計1万5000円程度（現地での活動費・食費を除く）を想定している。